



学校だより

令和7年2月3日

はなぐりみなみ

きさらぎ
2月(如月)

草加市立花栗南小学校

学校教育目標

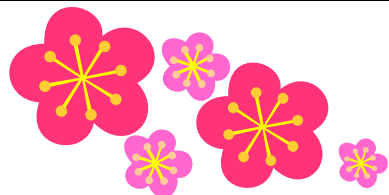
考える子

思いやりのある子

体をきたえる子

「あいさつ運動」発祥の地

あいさつじまん



『雪に耐えて梅花麗し』



校長 小林 和美

植木屋さんが学校敷地内の木々の剪定をしてくださいました。開校53年の本校の樹木は大きく生長し、敷地外にもだいぶ枝を伸ばしておりました。校庭から見上げる青い空が少し広くなったような気がします。

私ごとですが先日ちょっとした手術を受けました。30分で終わると気軽に思っておりましたが、家族に送ってもらい朝一番に病院へ。総合病院の初めて案内されるエリアに入り、手術着に着替えるように促され、何度も何度も本人確認が行われました。手術室に入っていよいよ手術台に上がり、手術用のライトが天井にいくつもあるのが見えたときは、さすがに緊張してドキドキしてきました。オルゴールのBGMがやさしい音でしたが、心細い思いがこみ上げてきました。おかげさまで、予定通りあっという間に終わりました。手術室を出ると、そこに手術着を着た1年生くらいの小さい女の子が立っていました。思わず「どうしたの。」と声をかけたくなるのを、「自分は今、患者の立場だった。」と思い返し、すれ違いながら、手術室に入って行く女の子を見送りました。「あんなに小さいのに手術は一人で受けるのか。手術室は怖くないかな。泣かないかな。付き添いのお母さんは手術室のすぐ外で待つのだろうな。」と思いながら外来病棟へ案内されてついて行くと、女の子のお母さんも私と一緒に歩いています。「小さいのに一人で手術なんですね。」と声をかけると、お母さんは「これを乗り越えて心が大きく成長できます。」と。看護師さんも「そうですね。強くなりますよ。」とおっしゃいました。手術が必要なことや心構えを事前にお子さんにしっかり納得させ、「この試練を我が子なら乗り越えられる」と信じている様子がうかがえました。

私は『雪に耐えて梅花麗し』という江戸幕末に西郷隆盛が詠んだ漢詩を思い出しました。『厳しい雪の寒さに耐えるからこそ、梅の花は美しく咲く』という意味です。転じて、「試練や苦悩に耐えて乗り越えれば、大きな成長がある」ということを示しています。子どもは生まれたばかりは、すべて親に依存していますが、少しずつ自分でできることを増やしていき、やがて親から自立していきます。子どもに困ったことがあったときに、すぐ大人が手を差し伸べて対処してしまうと、自ら考えて行動することができなくなり、せっかくの成長のチャンスを失います。子どもは学校や児童クラブ、おけいこ事などのいろいろな集団の中で、友だちと思うようにいかなかったり、課題を乗り越えることが困難だったり、おうちの人に自分のつらい気持ちを打ち明けることがあるでしょう。そのような時はその気持ちをしっかり受け止め、「困っていることを友だちや担任などに相談してみよう。あなたなら大丈夫だよ。」と解決の糸口を探すように勇気づけをしながら、大人は見守りとアドバイザーになっていきましょう。もちろん学校にも相談してください。『雪に耐えて梅花麗し』という漢詩のように、少しずつ試練を体験させることは、「自分の力で未来を切り開くことができる」という、子どもの幸せな未来を願う大人の愛情なのではないでしょうか。



あいさつじまん どくしょじまん そうじじまん